

乳児期からの多部位湿疹と治療中断を経てかゆみと皮むけが軽減した幼児アトピーの経過 (2歳8か月 女児)

症例 ID：001-02-MH1 | 記録日：2015年10月13日

1. 診断・治療前経過

生後1か月頃から顔に湿疹が出て、衣類や抱っこ用品に触れる部位にも症状が広がりました。生後7か月頃からステロイド外用を本格的に使用しました。

1歳時の検査では卵、大豆、ダニ、ハウスダスト、犬、猫への反応を指摘され、より強い外用薬と抗アレルギー薬を勧められました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	アルメタ、プロパデルムなどのステロイド外用薬を使用しました。
製品名	アルメタ、プロパデルム。
強度	不明です。
使用期間	生後3か月頃から1歳頃まで断続的に使用しました。
中止時期	1歳1か月の松本医院受診前後です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後1～8か月	発症・外用	顔や接触部位に湿疹が出て、生後7か月からステロイド外用を本格的に使用しました。
1歳1か月	治療開始	漢方入浴と外用処置を開始しました。
治療3日頃	初期反応	左肘に浸出性症状が出ましたが、数日で落ち着きました。
1歳4～6か月	症状持続	夜間にかゆみで泣き、露出部を掻く状態が続きました。
1歳8～10か月	睡眠変化	夜中にかゆみで泣くことがなくなり、掻く時間も減りました。
2歳0～5か月	治療中断・再悪化	経済的理由で治療を中断し、別の漢方薬へ変更後、皮むけとかゆみが再び強くなりました。
2歳5か月	治療再開	松本医院の煎じ薬を再開しました。
2歳6～8か月	改善期	かゆみと皮むけが軽減し、眠る直前以外はほとんど掻かなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療中断後の2歳2～5か月頃に日中も掻き続け、皮膚がボロボロにめくれた時期です。

5. 困りごと

- 乳児期から夜間のかゆみで何度も起きる状態が続きました。
- 治療費の問題から治療を中断し、治療方針を再検討する必要がありました。
- 衣類や抱っこ用品など、肌に触れる素材への配慮が必要でした。

6. 経過のまとめ

煎じ薬を再開した後、2歳6か月頃からはかゆみと皮むけが軽減しました。

2歳8か月時点では眠る直前に足を掻くことはあるものの、全体として皮膚状態は落ち着いていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。